

視 点	将来の方向カードを分類					あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>子ども</p> <p>大学生と子どもとの世代間交流</p> <p>小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする</p> <p>コミュニケーションのとれる子</p>	<p>市民間交流</p> <p>ボランティアしたい人とふれあいを求める人をつなぐ</p> <p>市民が楽しめる機会づくり</p> <p>子どもが安心して暮らせる地域をつくる</p>	<p>誰もが参加しやすい負担のかからない自治会の運営</p> <p>誰かが見える、誰かが分かる状態にする</p> <p>市民が安心して暮らせる地域をつくる</p> <p>市民全体を知る機会を提供する</p>	<p>まちの賑わいのような場をつくり、人々の居場所をつくる</p> <p>いろいろなパワープラウダの人が、共生されている</p> <p>学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する</p>	<p>行政</p> <p>市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ</p> <p>市職員は市民の声に目をかため、市民は市を理解する姿勢を持つ</p> <p>行政と住民の距離をつなぐ開かれた自治会にする</p>	
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>安心・安全</p> <p>古いものを残しながら安全・安心・暮らしを支える</p> <p>大人の世帯のこと、若手・高齢者世帯のことを伝える</p> <p>英語の圏内を持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の維持管理を進める</p> <p>忘れぬように、危険性を伝えていく</p>	<p>子育て</p> <p>遊びあじめる、子どもが来たくなる子育て</p> <p>大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になつたら地域の子も育てる</p> <p>豊かな育や高齢者の居場所を拡げて、居場所や居場所の確保など活躍できる場がある</p> <p>文化との共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち</p>	<p>多様性</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる</p> <p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利に</p> <p>市の広域力を活かして、市民と市がまちづくり情報を共有する</p>	<p>利便性</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる</p> <p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利に</p> <p>市の広域力を活かして、市民と市がまちづくり情報を共有する</p>	<p>景観</p> <p>色の統一、アースカラー</p> <p>市の個性と行動を生き、育て、自然やまちを大切にしながら、個性を表現していく</p> <p>景観柱の長所と短所のバランス</p> <p>景観にあったサインやデザインのマッシュアップで新しい人も受け入れる</p>	<p>① ② ③</p> <p>① ② ③</p> <p>④ ⑤ ⑥</p> <p>⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>人材</p> <p>たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p> <p>地域に思い入れのある子</p> <p>芦屋の著名人を選出し、発信する</p> <p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子</p> <p>元氣・活発で伸びまわりの子</p>	<p>自然</p> <p>芦屋川を人々の居場所の場として活用</p> <p>自然との共生</p> <p>山、川、海が繋がる芦屋の自然を活かした交流の場を主出し、魅力を発信</p>	<p>ハード</p> <p>施設の連携を進め、市民が参加し、楽しめる美術館・博物館にする</p> <p>人の命を守るためのハードはお金をかけても整備する</p> <p>暮らしやすさを確保するためのハードとして活用</p> <p>スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古くて良いものを活かす。まちの価値を高める</p> <p>ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面ですくすくかかる</p> <p>みんなが活用できる場(施設)となるようにする</p>	<p>文化</p> <p>継続的に芦屋らしさを保つため、技術で新しい芦屋らしさを創る</p> <p>芦屋の伝統をもつ大切に</p>	<p>産業</p> <p>「民のまち」をブランドにし、地域の価値を高める</p> <p>芦屋らしい産業がある</p>	<p>⑬ ⑭ ⑮</p> <p>⑯ ⑰ ⑱</p> <p>⑲ ⑳ ㉑</p> <p>㉒ ㉓ ㉔</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての</p>	<p>教育</p> <p>自分で考えて行動する子</p> <p>主が学びが日本一進んでいるまちにする</p> <p>自分で物事を考えられる子</p> <p>1丁やゲームとうまくつきあっている子</p> <p>小さいころから文化に触れる</p> <p>多様な学びを持つ</p> <p>芦屋の個性、強みを活かして教育で、芦屋に専攻を持つ。将来に活かしてくれるも育てる</p> <p>未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる</p>	<p>文化</p> <p>伝統、文化を市民へ発信し、まちの魅力をさらに高め、おもしろい都市のイメージを伝える</p> <p>市民や来訪者が芦屋の文化とまちを併せて楽しむことが出来る仕組みや場をつくる</p>	<p>行政</p> <p>財政を豊かにするため、産業を取り込む意識をみんながもつ</p> <p>行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化</p> <p>行政が積極的育成のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を進める</p> <p>市民も市の財政状況を理解する必要がある</p>	<p>多様性</p> <p>高齢者や主婦など、働きたい人が自立できるような環境を整える</p> <p>園遊化</p> <p>市は市民の居場所のつくりを深めるとともに、住民の声をきき、透明な意思決定プロセスを踏む</p>	<p>産業</p> <p>商業と市がタイアップしてJR芦屋駅を中心として回遊できるまちにする</p> <p>個人の商店、起業を応援できるまち</p> <p>芦屋らしい小さい店、個人店が活躍できる</p>	<p>㉕ ㉖ ㉗</p> <p>㉘ ㉙ ㉚</p> <p>㉛ ㉜ ㉝</p> <p>㉞ ㉟ ㊱</p> <p>㊲ ㊳ ㊴</p> <p>㊵ ㊶ ㊷</p> <p>㊸ ㊹ ㊺</p> <p>㊻ ㊼ ㊽</p> <p>㊾ ㊿</p>

A

視点

将来の方向カードを分類

あるべき姿

人のつながり

市民間の交流と活動や地域力に関する視点

児童(若年) 小中学生や高校生が交流し、活動できる環境にする
コミュニケーションのとれる子

環境

市民が楽しめる機会づくり
山、川、海が開けた戸屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を発信
戸屋川を人々の賑わいの場として活用

コミュニティ

大学生と子どもとの世代間交流
大人の発達など、やりがいとて集まる世代をこえたコミュニティづくり
顔が見える・顔が分かる状態にする
草履していない若年世代も入りやすいコミュニティづくり

市民参加

ボランティアしたい人と求めたい人をつなぐ
参画と協力の仕組み

行政のバランス

課題の進展を速め、市民が参加し、楽しめる事業展開・特約館にする
市民や来訪者が戸屋の文化とまちを併せて楽しむことができる仕組みやしきをつくつ
まちの賑わいのような集まる場を作り、人々の繋がりをつくるきっかけとする
文化の共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち

市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ
市職員は市民の声に目をかたむけ、市民は市を理解する姿勢を持つ
行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化
行政と住民の間をつなぐ開かれた自治会にする
誰もが参加しやすい自治会の運営

人々のつながり
通じ(戸屋2021)

市行政の「おのれ」温故知新の場創りができる

暮らしやすさ

安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点

色の統一、アースカラー
隣町柱化の長寿と短寿のバランス
戸屋にあったサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる
南北の緑地のバランス

街並み

自然との共生
防災の観点を持ちながら、市民の暮らしと作り合うように自然の維持管理を進める
大人に災害のこと、精神・交通大震災のことを伝える
人の命を守るためのハード面はお金をかけても
忘れないように、危険性を伝えしていく

公共・街づくり

移動手段の充実で、地域内を移動できる修利なまちに
商業と市がタイアップしてJR戸屋駅を中心として回遊できるまちにする
誰もが公共施設を便利利用できる

市民全体を知る機会を提供する

市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する
市がどのような方向に進もうとしているのかもつわたりやすくするとともに市民にも広く周知する

情報発信者有

居が楽しめる、子どもが来なくなる子育てづくり
遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境
指て

いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている
学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する

健康
★ 芦屋の良さを活かして誰にとっても安心・安全でコンパクトな暮らしの街
安心して医療にかかれる
運がよくなった

資源

芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点

キャリア教育が日本一進んでいるまちにする
未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる
いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子
元氣・活発で伸びまわりの子
地域に想い入れのある子

自分で考えて行動する子

自分で物事を考えられる子
ITやゲームとうまくつきあっている子
多様な価値観を持つ子
たくさん人の手助けを覚悟できる子ども

人材教育、未来のため

文化

スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古いものを活かし、まちの価値を高める
戸屋の伝統をもつ大切にする
戸屋の著名人を活用し・発信する
ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面ですぐにりかかる
市民が文化を楽しみながら文化を育てられるように

★ 今ある良さを首が共有し、育んで循環させます
★ 多様な価値観を尊重し、金銭市場の共生、多文化、多文化のイノベーションを起す

未来

少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりに関する視点

小ざいころから文化にふれる
大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になった地域の子どもを育てる
戸屋の個性、強みを活かした教育で、戸屋に愛着を持ち、将来戸屋に帰ってくる子どもを育てる

行政が情報受発信のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との関係を深める

「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める
継続的に戸屋らしさを保つため、技術で新しい戸屋らしさをつくる

機能・方針(住居)

市民の個性と行動力を生かし、育て、自然やまちの楽しみなどを維持管理していく

産業

働かざる者

働かざる者や高齢者の雇用を活かして、産業や雇用創出など活躍できる場がある
戸屋らしい産業がある
みんなが活用できる場(施設)となるようにする
高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち
様々な施設(園地、高齢、保育所)を地域の1つの資源として活用

働きながらの子育てを充実

新しい働き方生活スタイル共生

個人の商店、起業を応援できるまち
戸屋らしい小さい店、個人店が活躍できる
対策を講ずるための産業を取り込む意識をみんながもつ
市議員の財政状況を理解する必要がある

産業政策

B

視点	将来の方向カードを分類	あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>既存コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが参加しやすい、負担のかけられない自治会の運営 コミュニケーションのとれる子 いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子 たくさんの中での力を発揮できる子ども <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 話が楽しめる、子どもが楽しくなる学習づくり 小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする 志望と夢をもち、世代間交流 <p>新しいコミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 定住してない人や若い人が入りやすいコミュニティづくり 大人のボランティアなど、やりたいことで集まる世代をこえたコミュニティづくり 定住の準備のような集まる場を設け、人々の繋がりをつくるきっかけとする 顔が見える・顔が分かる状態にする 大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもも大人になったら地域の子どもを育てる 学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する 夢と協力の仕事 ボランティアしたい人とふれあい(多様な人をつなぐ) 市内外のコミュニティ(ネット活用)などとの関係づくり 	<p>① 新しいコミュニティと古いコミュニティの融合⇒イノベーション / 若者男女を問わず(世代横断)</p> <p>② 新たな場(まちの縁側)づくり</p> <p>小・中・高・大学生のさらなる交流</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災の意識を持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の備わったまちを築く ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面ですくすくとつなげる 忘れないうちに、危険性を伝えていく 大人に災害のこと、防犯・避難訓練のことを伝える <p>多様な暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち 働きながらの子育てを充実 障がいや高齢者の暮らしを助けて、居場所や雇用環境など活躍できる場がある 市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する 市民が楽しめる機会づくり 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに 誰もが公共施設を便利に利用できる 商業と市がタイアップして、市民生活を中心として運営できるまちにする <p>多様なアスリート</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化との共生でアーティストが集まるなど、多様な人が暮らしやすいまち いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている <p>多様なアスリート</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいや高齢者の暮らしを助けて、居場所や雇用環境など活躍できる場がある 市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する 市民が楽しめる機会づくり 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに 誰もが公共施設を便利に利用できる 商業と市がタイアップして、市民生活を中心として運営できるまちにする 	<p>① 高齢者・主婦・障害者など誰もが多様なスタイルで活躍できる多様性と包摂性</p> <p>② 情報共有(防災/コミュニティ/まちづくり/日常生活)の強化</p> <p>安全なまち</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>自然環境、文化</p> <ul style="list-style-type: none"> 芦屋の著名人を活用し、発信する 自然との共生 芦屋川を人々の集わいの場として活用 山、川、海が揃った芦屋の自然を活かした交流の場を主力とし、魅力を発信 遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境 芦屋の伝統を大切に 市民が文化を愛しながらかultureを創られるように <p>ハード景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観の統一、アースカラー 市民の個性と行動力を主とし、自然やまちをのびのびと育てていく 南北の緑地のバランス 無電柱化の風情と街路のバランス 小さいころから文化にふれる 市民が文化を愛しながらかultureを創られるように <p>ソフト景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設の過程を、市民が参加し、楽しめる美術館・博物館にする 芦屋の伝統を大切に 遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境 市民が文化を愛しながらかultureを創られるように 	<p>あそびのり/バーション/せりかす</p> <p>芦屋らしい小さな店 芦屋らしい果親 芦屋らしい自然と文化 芦屋オリジナル(どう話しか?)</p> <p>① みんなで共有し</p> <p>② 生きいきくをのびのびするキャリア教育(限外) 柔軟</p> <p>各ステークホルダー 行政/議員/一般市民/民間企業/地域組織等、オール芦屋で</p> <p>③ 透明な意思決定プロセス</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる 多様な価値観を育てる子 元気・活発で伸びやかな子ども 自分で物事を考えられる子 未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる 多様な価値観を育てる子 元気・活発で伸びやかな子ども 自分で物事を考えられる子 <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政が情報発信のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を深める 行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化 市民は市民の立場でつながりをもつとともに、市民の声をきき、透明な意思決定プロセスを確立 市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ 市民も市の財政状況を理解する必要がある 市民全体に知る機会を提供する 市民がどのような方向に進むかとしているのがもっとわかるといい 	<p>① みんなで共有し</p> <p>② 生きいきくをのびのびするキャリア教育(限外) 柔軟</p> <p>各ステークホルダー 行政/議員/一般市民/民間企業/地域組織等、オール芦屋で</p> <p>③ 透明な意思決定プロセス</p>

視点	地域コミュニティ	将来の方向カードを分類	市・まち自治会	あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>多様な価値観を持つ子 地域に思い入れのある子 たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p> <p>コミュニケーションのとり手 自分で考えて行動する子</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子 元気・活発で仲にはまりすぎない子</p> <p>ボランティアしたい人とふれあいを求める人をつなぐ まちの課題のような集まる場を作り、人々の繋がりをつくるきっかけとする 市民が楽しめる機会づくり 大人の相談など、やりとりにて集まる世代をこえたコミュニティづくり</p>	<p>多様な価値観を持つ子 地域に思い入れのある子 たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p> <p>コミュニケーションのとり手 自分で考えて行動する子</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子 元気・活発で仲にはまりすぎない子</p> <p>あるいるなバックグラウンドの人が、共生されている</p>	<p>市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ 市は市街内の集約つながりをつくるために、住居の声をきき、透明な意思決定プロセスを確立 行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化 市職員は市民の声を耳をかたむけ、市民は市を理解する姿勢を持つ</p>	<p>「13人な世代か」と心んり、集い、ふあうこで 多様な価値観をもち、 活発な流動・発展を行うコミュニティをつくる (=新陳代謝のみ)</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>忘れられないように、危険性を伝えていく ハードは資金と時間がかかるので、ソフト面にすぐにとりかかる 人の命を守るためのハード面はお金をかけても整備する</p> <p>施設の観点を持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の維持管理を進める 大人に災害のこと、阪神・淡路大震災のことを伝える 自然の命を守るためのハード面はお金をかけても整備する</p>	<p>南北の規制のバランス 定住していない人や若い人も入りやすいコミュニティづくり 市街にあつたサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに 誰もが楽しめる、子どもが来たくなる子育て</p>	<p>色統一、アースカラー 無電柱化の長所と短所のバランス</p>	<p>人と人とのつながりを活かし、子供から高齢者、全ての人にやさしく、住み続けたい街をデザインする。</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>自然との共生 山、川、畑が持つ芦屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を発信 芦屋川を入りの賑わいの場として活用</p> <p>歴史的に芦屋らしさを保つため、技術で新しい芦屋らしさをつくる 芦屋らしい産業がある 芦屋らしい小さい店、個人店が活躍できる 個人の商店、起業を応援できるまち</p>	<p>映画と協力の仕組み 市民が文化を楽しみながら文化を育てられるように 小さいころから文化にふれる</p> <p>芦屋の著名人を活用し、発信する 市民の感性と行動力を生かし、真に自然やまちなみの美しさなどを維持管理していく 芦屋の伝統をもちつ大切にする</p>	<p>商業と市がタイアップしてJR芦屋駅を中心として育てるまちにする 業種の連携を進め、市民が参加し、楽しめる業種間・地域間にする 遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境</p>	<p>古くからある文化・芦屋のイメージを残しつつ、新しいモノを受け入れ "芦屋をほほに思い出す"、新しい 芦屋をつくる</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる キャリア教育が日本一進んでいるまちにする 芦屋の個性、強みを活かした教育で、芦屋に自信を持ち、将来芦屋に返ってくる子どもも育てる 大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になつたら地域の子どもを育てる</p> <p>市民や来訪者が芦屋の文化とまちを併せて楽しむことが出来る仕組みやしかりをつくる 古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを変える 高齢者や主婦など、暮らしたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち 伝統、文化を市民へ発信し、まちの魅力をよりつなげ、お食事イメージの芦屋へのイメージを伝える 文化との共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち</p>	<p>高層ビルや主棟など、暮らしたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち スクラップとビルドはではなく、リノベーションで古くて良いものを活かし、まちの価値を高める 文化との共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち</p>	<p>行政が情報受容性のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を促める 「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める 障がい者や高齢者の居場所を活かし、環境や雇用環境と活躍できる場がある 財政を豊かにするための、産業を取り込む意識をみんながもつ</p>	<p>市民と行政がつながり、活気あふれ、希望の見えるまちを創造する 芦屋をよく知ること (小情報発信ポータル)</p>

D

視点	将来の方向カードを分類	あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>将来の方向カードを分類</p> <p>① 基盤づくりのコミュニティ 誰もが参加しやすい、負担の少ない自治会の運営 行政と住民の関わりを強く開かれた自治会にする 行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化</p> <p>② コミュニティのあり方 誰が登る・誰が下がる 参加と協力の仕組み 定住していない人や若い人も入りやすいコミュニティづくり 学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する 市民が選ばれる機会づくり</p> <p>③ コミュニティの方向性 コミュニケーションのとれる子 大人の即応性など、やりたいことで集まる世代をこえたコミュニティづくり 大学生と子どもとの世代間交流 まちの緑地のような集える場を作り、人々の繋がりをつくるきっかけとする ボランティアがしたい人と、これあいを求める人をつなぐ</p>	<p>既存のコミュニティを含め、基盤と既存コミュニティを強化</p> <p>多様な人々の集まる場、関係性をまぎ、集まるコミュニティの場作りと広げ</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>① 基盤 安全・安心 古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを変える 大人に災害のこと、防災の懸念を持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の維持管理を進める 忘れないように、危険性を伝えていく 消防、道路大震災のことを伝える</p> <p>② 情報力 市民全体に知る機会を提供する 市の広域力を活かし、市民と市がまじり合い、情報を共有する 市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ 市がどのような方向に進もうとしているのかもわかりやすくするとともに市民にも広く伝える</p> <p>③ 子育て 誰もが楽しめる、子どもが来なくなる子育てづくり 小学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする 働きながらの子育てを充実</p> <p>④ 多様性 高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち 働きがいや高齢者の居場所を活かして、居場所や雇用の場など活躍できる場がある みんなが活用できる場(施設)となるようにする 文化との共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち</p> <p>⑤ 利便性 移動手段の充実で、地域内を移動できる環境をさらに 誰もが公共施設を便利に利用できる</p>	<p>みんなに便利なまち 安全・安心・暮らしやすさ (情報発信・共有) 情報力のあるまち 充実した子育ての場づくり</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>① 教育 多様な価値観を持つ子 キャリア教育が日本一進んでいるまちにする 未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる 自分で考えて行動する子 自分で物事を考えられる子 いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子</p> <p>② ハード 無電化時代の長所と短所のバランス 市民の感性と行動力を生かし、育て、自然とまちが自然の恵みなどを感じ管理していく 緑豊かな環境(緑がい、自然、保樹率)を地域の1つの資産として活用 南北の規制のバランス 人の命を守るためのハード面はお金をかけても整備する スクラップビルドではなく、リノベーションで古いものを活かす、まちの魅力を高める</p> <p>③ ソフト文化 市民や来訪者が芦屋の文化とまちを併せて楽しむことができる仕組みやきっかけをつくる 芦屋川を人々の賑わいの場として活用 芦屋の著名人を活用し、発信する 芦屋の伝統をもちつと大切に 小さいころから文化にふれる</p>	<p>① 産業 芦屋らしい小さい店、個人店が活躍できる 芦屋らしい産業がある 商業と市がタイアップして、芦屋駅を中心として回復できるまちにする 個人のお店、起業を応援できるまち</p> <p>② 古き良きものを活かして自然と共生できるハード面の整備 芦屋らしい文化産業を育てる</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>① 教育の充実 少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p> <p>② 財政面 財政を豊かにするため、産業を取り込む環境をみんながもつ 市民も市の財政状況を理解する必要がある 継続的に芦屋らしさを保つため、技術で新しい芦屋らしさをつくる</p> <p>③ 芦屋の魅力を 「民生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める 山、川、海がもたらした芦屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を発信 伝統、文化を市民へ発信し、まちの魅力づくりにつなげ、お金持ち一辺倒のまちへのイメージを変える</p>	<p>教育の設備と人の充実</p> <p>芦屋の教育、財政力、魅力を充実させ、人が住みたくなるまち</p> <p>↓</p> <p>持続可能なまち</p>
	<p>④ 行政のあり方 市は自治体としてのつながりを保つとともに、住民の声をきき、透明な意思決定プロセスを確立 市職員は市民の声をきき、かたむけ、市民は市を理解する姿勢を持つ 行政が環境学習のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を進める</p>	<p>市民と行政のキックボール</p>

E

視点	将来の方向カードを分類				あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>世代間交流・他中間交流</p> <p>定年していない人や若い人でも入りやすいコミュニティづくり</p> <p>地域に思い入れのある子どもたち</p> <p>大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になったら地域の子どもの親である</p> <p>字びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する</p>	<p>世代間交流・他中間交流</p> <p>大人が現える・歳が分がる状態にする</p> <p>市民が楽しめる機会づくり</p> <p>まちの賑わいのような集まる場を作り、人々の関わりをつくるきっかけとする</p> <p>市民が楽しめる機会づくり</p> <p>まちの賑わいのような集まる場を作り、人々の関わりをつくるきっかけとする</p>	<p>市民が文化を楽しむから文化を育てられるように</p> <p>小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする</p> <p>市民が文化を楽しむから文化を育てられるように</p> <p>小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする</p>	<p>市民が文化を楽しむから文化を育てられるように</p> <p>小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする</p>	<p>あるべき姿</p> <p>79種79様は立場の人々が顔の見える場として、気軽に話合える関係性がうまれ、街通して</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>暮らしやすさ</p> <p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに</p> <p>誰もが参加しやすい、負担のかからない自治会の運営</p> <p>無電柱化の長所と短所のバランス</p>	<p>あるべき姿</p> <p>自然との共生に押し合ひ、つりながら、安心安全は環境のもとと木々のスタイルで、活躍できる街 3歳〜高齢者、障がいのあり、子ども</p>			
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>資源</p> <p>自分で考えて行動する子ども</p> <p>自分で物事を考えられる子ども</p> <p>コミュニケーションのとれる子ども</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子ども</p> <p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子ども</p> <p>元気・活発で仲はまじりやすい子ども</p> <p>多様な価値観を持つ子ども</p> <p>たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p>	<p>資源</p> <p>自分で考えて行動する子ども</p> <p>自分で物事を考えられる子ども</p> <p>コミュニケーションのとれる子ども</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子ども</p> <p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子ども</p> <p>元気・活発で仲はまじりやすい子ども</p> <p>多様な価値観を持つ子ども</p> <p>たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p>	<p>資源</p> <p>自分で考えて行動する子ども</p> <p>自分で物事を考えられる子ども</p> <p>コミュニケーションのとれる子ども</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子ども</p> <p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子ども</p> <p>元気・活発で仲はまじりやすい子ども</p> <p>多様な価値観を持つ子ども</p> <p>たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p>	<p>資源</p> <p>自分で考えて行動する子ども</p> <p>自分で物事を考えられる子ども</p> <p>コミュニケーションのとれる子ども</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子ども</p> <p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子ども</p> <p>元気・活発で仲はまじりやすい子ども</p> <p>多様な価値観を持つ子ども</p> <p>たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p>	<p>あるべき姿</p> <p>芦屋の自然や文化に資源を活かして未来活動人口である子どもにちが育つ街</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>未来</p> <p>未来の子どもの可能性を広げる環境をつくる</p> <p>キャリア教育が日本一進んでいるまちにする</p>	<p>未来</p> <p>未来の子どもの可能性を広げる環境をつくる</p> <p>キャリア教育が日本一進んでいるまちにする</p>	<p>未来</p> <p>未来の子どもの可能性を広げる環境をつくる</p> <p>キャリア教育が日本一進んでいるまちにする</p>	<p>未来</p> <p>未来の子どもの可能性を広げる環境をつくる</p> <p>キャリア教育が日本一進んでいるまちにする</p>	<p>あるべき姿</p> <p>芦屋のカラーが活きる街</p>
					<p>あるべき姿</p> <p>カラーとは...色・特色</p>

視点	<p>従来の方向カードを分類</p> <p>コミュニティ</p>			あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>参画と協力の仕組み</p> <p>行政が積極受身のHUBなり、市民が積極主体、担い手の役割を深める</p> <p>行政・議員・自治会、一般市民との関係の強化</p> <p>市民は市長の声に耳を傾け、市長は市民の声を理解する姿勢を持つ</p>	<p>小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする</p> <p>大学生と子どもとの世代間交流</p> <p>大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になったら地域の子も育てる</p> <p>地域に若い入れのある子ども</p>	<p>いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている</p> <p>文化との共生でアーティストが多くなるなど、多文化の人が暮らしやすいまち</p> <p>定住していない人や若い人でも入りやすいコミュニティづくり</p> <p>行政と住民の関わりが深くなった自治会にする</p> <p>誰もが参加しやすい、負担のかからない自治会の運営</p> <p>学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する</p> <p>ボランティアしたい人とふれあいを求める人をつなぐ</p>	<p>「ほじ良い距離自問」「新しいコミュニティ(人)」「79様性を認め合う」</p> <p>「今あるものも、これからできるものも、79様性を認め合うコミュニティ」</p> <p>「ほじ良い距離感でつながる」</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>忘れないうちに、危機性を伝えていく</p> <p>大人の英語のこと、阪神・淡路大震災のことを伝える</p> <p>山、川、湖が持つ自然の恵みを生かした交流の場を生み出し、魅力を発信</p> <p>市民全体の知る機会を提供する</p> <p>市民が文化を楽しみながら文化を育てられるように</p> <p>古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを支える</p> <p>市民も市の財政状況を理解する必要がある</p> <p>市の広域力を活かし、市民と市がまちづくりの役割を共有する</p>	<p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに</p> <p>市民の個性と行動力を生かし、育て、自然やまちの魅力を最大限に活用し、まちを維持管理していく</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる</p>	<p>医療・福祉</p> <p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに</p> <p>市民の個性と行動力を生かし、育て、自然やまちの魅力を最大限に活用し、まちを維持管理していく</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる</p> <p>子育て支援</p> <p>遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境</p> <p>語が楽しめる。子どもが来たくなる学習づくり</p> <p>働きながらの子育てを充実</p>	<p>「双方向コミュニケーション」「発信手段の79様性」「ハードの利便性の向上(移動手段)」「既存ニーズを掘り出す」</p> <p>「みんなの声がとどいて」</p> <p>「実現せよ！まちづくり」</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>人のあふれるためのハード面はお金をかけても整備する</p> <p>自然性の高い山と湖のバランス</p> <p>ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面ですぐにとりかか</p> <p>南北の縦断のバランス</p> <p>芦屋川を人々の憩いの場として活用</p> <p>様々な施設(障がい、高齢、保育所)を地域の1つの資源として活用</p> <p>緑地帯に芦屋らしさを保つため、技術で新しい芦屋らしさを創る</p> <p>芦屋にあったサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる</p> <p>みんなが活用できる場(施設)と作るようにする</p> <p>歴史の遺跡を認め、市民が愛用し、楽しめる美術館・博物館にする</p> <p>芦屋の歴史をもっと大切にする</p>	<p>スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古いものを活かす、まちの価値を高める</p> <p>芦屋の著名人を活用し、発信する</p> <p>市民や来訪者が芦屋の文化とまちを愛して楽しむことができる仕組み作りを創る</p> <p>芦屋の伝統をもっと大切にする</p>	<p>文化</p> <p>スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古いものを活かす、まちの価値を高める</p> <p>芦屋の著名人を活用し、発信する</p> <p>市民や来訪者が芦屋の文化とまちを愛して楽しむことができる仕組み作りを創る</p> <p>芦屋の伝統をもっと大切にする</p> <p>芦屋らしい街づくり、個人店が活躍できる</p> <p>財政を豊かにするための、産業を取り込む原動力をみんながもつ</p> <p>商業と市がタイアップしてJR芦屋駅を中心として回遊できるまちにする</p> <p>芦屋らしい産業がある</p> <p>個人の商店、起業を応援できるまち</p> <p>高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち</p> <p>若い人や高齢者の両方を活かして、環境や雇用環境などを創ることができる</p>	<p>「既存資源を時代とニーズに合ったものに変えていく」</p> <p>「文化・産業、イメージなどの既存資源を大事に」</p> <p>「文化・産業、イメージなどの既存資源を大事に時代とニーズに合ったものに変えていく」</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての</p>	<p>小さいころから文化にふれる</p> <p>未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる</p> <p>自分で物事を考えられる子</p> <p>多様な価値観を持つ子</p> <p>自分で考えて行動する子</p>	<p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子</p> <p>「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める</p> <p>芦屋の歴史、魂を活かした教育で、芦屋に愛着を持ち、将来芦屋に貢献してくれる子どもも育てる</p>	<p>子ども</p> <p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子</p> <p>「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める</p> <p>芦屋の歴史、魂を活かした教育で、芦屋に愛着を持ち、将来芦屋に貢献してくれる子どもも育てる</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子</p> <p>「活躍」</p>	<p>「世代問わず、誰でも活躍できるまちを次世代につなげる」</p>

H